

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護者側の課題ではなく、利用者の真の課題(ニーズ)となっているか、改めて確認が必要と思われる介護計画がある	本人がよりよく暮らすための課題を適切に把握し、現状に即した介護計画を立て、計画に沿った支援ができる	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、利用者本位の介護計画書を作成する	12ヶ月
2	37	自立度の高い利用者には余り目を向けず放ったらかし状態。利用者様も遠慮して我慢して暮らしているように感じる	すべての利用者がいつも日常生活の中で思いや希望、自己決定を表せるようになる	自立度の高い(介助の必要がほぼない方)に、いつも感謝と労いの言葉をかけ、寄り添い、遠慮なく自然に希望を表出できたり自己決定ができる環境作りに努める	12ヶ月
3	14	コロナ禍では同業者と交流する機会も減り、サービスの質を向上させるためのネットワーク作りや勉強会など、リモートでの研修はあるが、画面越しの交流では物足りなさを感じる	リモートではない同業者との交流の機会が復活して、コロナ禍で滞っている情報交換やグループワーク勉強会などができるようになる	同業者との交流の機会が再開するまで、リモートでの研修には極力参加して、情報交換の内容や参加したい勉強会のテーマを準備しておく	12ヶ月
4	35	大雨で甚大な被害を受けた所もあり、最近では毎年のように被害が出ている。この地域でも発生するという緊張感を持っていざという時の準備をしておく	災害時、管理者の判断で早め早めの避難指示を出し、職員一人ひとりが慌てることなく落ち着いて利用者の避難誘導ができる	年に2回(7月、12月)の消防避難訓練と毎年10月の水害時避難訓練にて、繰り返し、繰り返しシミュレーションやイメージトレーニングを行なう	12ヶ月
5	2	長引くコロナ禍により、利用者の外出にも制限があり、地域の方々との交流が断たれている	以前のように近隣へ散歩に出掛けたり、買い物に出掛けたりして、馴染みの方々とのつながりが復活する	スタッフと近隣へ散歩に出掛けたり買い物に出掛けたりして、地域の方と馴染みの関係を築き、日常的に交流している	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。